



## 平成30年度 草の根・人間の安全保障無償資金協力 契約署名式及び小切手供与

2019年3月15日、在パナマ日本国大使公邸において、草の根・人間の安全保障無償資金協力の契約署名式及び小切手供与が行われ、ディアス保健大臣顧問、リカルド教育次官補佐官の他、多くの方々が出席しました。

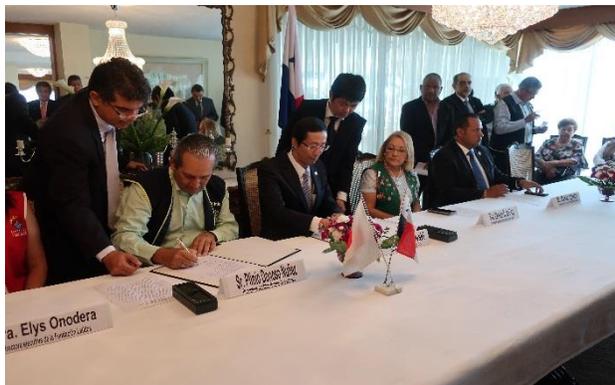
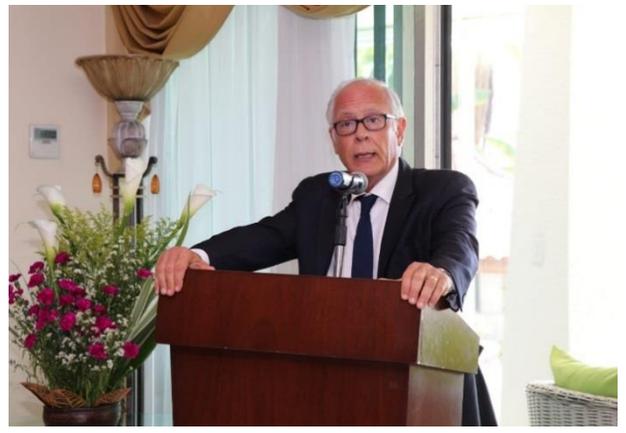
同式典において、「ホアキナ・アチェ・デ・トリホス保健センター救急処置エリア改修計画」、「モナグリージョがんセンター女性がん検査機器整備計画」、「心の鼓動基金心臓検査機器整備計画」及び「サン・ミゲル・アリーバ幼小中高等学校3教室建設計画」の被供与団体は、それぞれ大使館との間で契約署名を行い、大脇大使より案件実施のための資金を受け取りました。同4案件の実施により、パナマにおける保健分野及び教育分野の改善に繋がることが期待されます。

近年、パナマは堅調な経済成長を遂げておりますが、保健、教育、環境、社会開発等の分野において未だ多くの課題があります。これらの状況を解決する簡単な方法はなく、一つずつ地道に課題を解決していく以外に方法は無いと考えております。また、その取組を進めていくためには、地域に根付いたNGO団体の存在が重要です。

日本政府としては、長い友好の歴史を有する重要なパートナーであるパナマが、均衡の取れた持続的な発展を遂げられるよう、今後も惜しみなく協力していきたいと考えておりますし、政府関係者のみならず、NGO等の地域の発展を支える方々とも一緒に課題を解決していきたいと考えております。



日本大使館大脇大使、ディアス保健大臣顧問、リカルド教育次官補佐官、バニョス外務省国際協力局長、ドルモイ保健省国際協力局長、ピンソン国際協力局長、各団体との記念撮影



## 各案件概要

1. ホアキナ・アチェ・デ・トリホス保健センター救急処置エリア改修計画  
(El Proyecto de Remodelación del Área de Urgencias del Centro de Salud Joaquina H. de Torrijos)

被供与団体：サンティアゴ・ロータリークラブ

供 与 額：88,859 米ドル

供 与 品：ホアキナ・アチェ・デ・トリホス保健センターの1棟改修工事  
概 要：

①ホアキナ・アチェ・デ・トリホス保健センターは、ベラグアス県ラス・パルマス市エル・プラド地区に位置する第一次医療施設である。同センターは、同地区において唯一の公的医療機関であり、診察料は1ドルからと低額に設定されているため、ノベ・ブグレ先住民を含め、私立の医療機関の高額な医療費を負担できない地域に住む多くの低所得層の住民に不可欠な施設である。

②同センターは、月曜日から日曜日まで医療サービスを提供しており、2017年の年間利用患者数は計32,694人と地方の保健センターとしては非常に多くの患者を受入れている。また、パン・アメリカン・ハイウェイ沿いに位置しているため、車両事故等の患者の搬送や先住民族等の分娩の対応も行っており、2017年には、1,538人の患者に対し救急治療対応を行った。

③一方で、同センターの既存の救急処置エリアは、施設建設時には年間1,500人以上もの多数の患者の受入を想定しておらず、救急患者専用の搬送ルートが確保されていないため、救急患者の処置に不都合が生じている。また、同救急処置エリアはスペース不足やその配分に問題を抱えており、安全かつ衛生的な医療活動に支障をきたしている状況を改善しようと、同保健センターを運営する保健委員会より保健省に要請を行ってきたが、国の予算措置の目処が立たなかったため、同保健委員会と被供与団体とが協議し、より案件の遂行能力を高く有する被供与団体が当館に本件を申請するに至った。

2. モナグリージョがんセンター女性がん検査機器整備計画

(El Proyecto de Fortalecimiento para el Diagnóstico y Atención Integral del Cáncer de Mujeres en el centro de ANCEC Monagrillo)

被供与団体：全国がん協会

供 与 額：56,443 米ドル

供 与 品：モナグリージョ・がんセンターにおいて医療機器（超音波検査機器、検診台、高圧蒸気滅菌器、子宮頸癌凍結療法機器、診察用照明器具）の整備  
概 要：

①当地における死亡原因の1位はがんであり、全体の17%を占めている。2016年時点で、パナマ国内のがん患者は10,112人確認されており、毎年約3000人の患者が新たにがんと診断されている。そのため、保健省等の機関は様々な手段で国民にがんの早期発見の重要性を周知しているものの、近年、30

～50歳の中年層のがん発症数が増加傾向にあり、がんを要因とする死亡件数は年間2,980件と多くの尊い生命が失われている。特に、乳がん発症者数はがん患者全体の20%以上を占めており、2016年時点で乳がん患者は1,295人、死亡件数は233件であった。また、子宮頸がんもがん患者全体の17%以上を占めている。このような女性系のがんは、年々件数が増えており、その要因の一つとして、パナマ国内のがん医療、特に検診システムが脆弱で、検診機器の絶対数が不足していることや、がん専門病院がパナマ市周辺のみ集中している等の問題が挙げられる。

②人口12,385人のエレラ県チトレ市モナグリージョ地区に位置する同センターは、1993年に設立された同県唯一のがん専門施設であり、県外からも患者を受入れており、年間約5,000人の患者が訪れている。その大半は、私立クリニックの高価な検診費用を負担することが経済的に困難で、かつ、医療保険に加入していない低所得貧困層である。同センターでは、主に婦人科と内科の診療を行っており、医師3名、看護師2名が、一日当たり平均20人の患者に対するがんの診察及び検査、カウンセリングを行っている。しかし、同クリニックには十分な医療スタッフが配置されているにもかかわらず、肝心の検査機が不足または故障しているため、早期発見が重要な対がん治療の大きな障害となっている。現在、同センターは超音波検査機器を所有していないため、乳がん検査を視触診のみで行っており、超音波検査やマンモグラフィー検査を必要とする患者は、交通費や高額な医療費を負担して他県の検査施設まで行かなければならない。その他、子宮頸がんの治療に使用される凍結医療機器、検診台、高圧蒸気滅菌器、検診用スタンドライト等は、25年以上前から使用されているものもあり、機器の不具合や故障を繰り返している状況であるため、新たな機器の整備が必要となっている。

### 3. 心の鼓動基金心臓検査機器整備計画

(El Proyecto de Suministro de Equipos Médicos para la Fundación Latidos)

被供与団体：心の鼓動基金

供 与 額：54,061 米ドル

供 与 品：同基金施設に医療機器（超音波検査機器、検診台、酸素測定機、心電計、慎重体重計、診察用具）を整備

概 要：

①パナマでは、2016年の1歳以下の子どもの死因の約11%が先天性心疾患によるものであり、同疾患は近年増加傾向にある。会計検査院の統計によると、年間出産される約75千人の子どものうち約1%が何かしらの心臓の障害を持って生まれており、その数は年間約750人に上る。その中でも手術を必要とする場合、生後1か月以内に手術すれば後遺症が残る可能性が低く理想的であると言われているが、多くの場合、同期間を過ぎてからの対応となっているのが現状であり、手術の遅れが原因で患者が死亡するケースも少なくない。

②当地において手術を行うためには、超音波検査等を受け、詳しい病状の診断及び必要な手術の決定をしなければならないが、需要が多い同検査を受けるためには、公立病院での受検のために約3～4ヶ月の順番待ちをするか、約400ドル

程度の検査費を要する私立病院で受検するかを選択することになる。しかし、多くの患者家庭は低所得層であるため、衣食住や医療・教育など人間としての生活に最低限必要とされる費用をカバーすることが出来ず、私立病院での検査費を捻出できず、公立病院での順番待ちを選択せざるを得ない状況にある。

③なお、同基金は患者の家族への精神的・経済的支援やオリエンテーション、先天性心疾患についての啓蒙活動や国内の現状の情報共有するためのイベント等様々な活動を行っている他、パナマ国内での手術の順番待ちが発生する場合も多く多額の費用も要するため、比較的早く安価に手術が受けられるコロンビア等の近隣国での手術を受けさせるために必要な資金の募金活動等を行っている。同団体は、これら活動のメディアを通じた周知にも注力しており、同メディアを通じて本件の重要性を知ったバレーラ大統領が、コロンビアの子ども心臓病基金と協定を結ぶ等して56人の患者の手術予定の目処をつけた（第一弾グループの患者は、本年9月21日にコロンビア等に出発した）他、社会保険庁所管の病院にて不足する手術に必要な薬品の速やかな調達の指示を出す等、着実に取組の成果を出しているところである。本計画の実施により、迅速かつ低価格で検査を行うことができ、多くの先天性心疾患患者が適切な期間で手術を受けられることが可能となる。また、同団体は、同検査を受けるためにパナマ市中心部を訪問することができない地方部の低所得層のための出張検診も計画しており、広範囲での裨益効果が期待できる。

#### 4. サン・ミゲル・アリーバ幼小中高等学校3教室建設計画

(El Proyecto de Construcción de Tres Aulas del Centro Básico General San Miguel Arriba)

被供与団体：パナマ・キワニスクラブ・メトロポリタン

供与額：89,134米ドル

供与品：サン・ミゲル・アリーバ幼小中高等学校において、3教室の新築概要

①本プロジェクト・サイトは、首都パナマ市より西方へ約200km、人口約1万人のコクレ県ペノメ市チギリ・アリーバ地区に位置しており、ペノメ市中心部から山道を約1時間半行った山奥にある。

②当学校は、同地区サン・ミゲル・アリーバ区において唯一の教育施設であることから、幼小中高一貫教育を行っている学校である。現在、全学年で192名の生徒が通学しているが、人口の増加とともに年々生徒数も増加している一方で、経年劣化や不適切な資材が使用されていること等により施設は極めて劣悪な状況にあり、生徒の学習環境に支障をきたしている。具体的には、9年生が使用している教室は、老朽化が著しく酷く、トタン製の屋根に隙間が生じ雨水が漏れたり、打ちっ放しのコンクリート床が損傷し危険な状態にある等、状態が非常に悪い。また、10年生と12年生が使用している教室も経年劣化等により状態が非常に悪いだけでなく、からぶき屋根もいつ崩れてもおかしくない状態であるため、早急に代替の教室が必要である。パナマでは、複数の学年が同教室を同時に使用する場合もあるが、同校では、前述のとおり、生徒数の増加により、同措置を講じる容量が無いいため、新たな教室を新築し、生徒の学習環境を改善する必要がある。